



## PACIFIC CARGUY RACING

### 2022 AUTOBACS SUPER GT Round3 SUZUKA GT 300km RACE REPORT

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| カテゴリ     | :GT300クラス                     |
| エントラント名  | :PACIFIC CARGUY Racing        |
| マシン名     | :PACIFIC hololive NAC Ferrari |
| カーナンバー   | :9                            |
| タイヤ      | :ヨコハマタイヤ                      |
| ドライバー    | :木村武史、ケイ・コッツォリーノ              |
| レースクイーン  | :Pacific Fairies              |
| 開催日      | :2022年5月28日-29日               |
| 会場       | :鈴鹿サーキット (一周5.807 km)         |
| 天候       | :28日 ☀(Dry) 29日 ☀(Dry)        |
| 気温       | :28日 26℃→28℃ 29日 30℃→31℃      |
| 路面温度     | :28日 36℃→38℃ 29日 50℃→38℃      |
| 参戦車両数    | :GT500/15台 GT300/27台 合計42台    |
| Best Lap | :1'57.670                     |
| Q1 Bグループ | :5位                           |
| Q2       | :14位                          |
| 決勝       | :17位                          |

## PACIFIC hololive NAC Ferrari

選択したタイヤと想定以上の路面温度  
本来のパフォーマンス発揮はならぬも完走

### 事前情報

CARGUY RacingとのタイアップでGT300クラスフェラーリ488 GT3で参戦。女性バーチャルYou Tuberグループ「hololive(ホロライブ)」とタイアップしたカラーリングには大きな注目が集まっている。今回も木村武史とケイ・コッツォリーノとのコンビでの参戦となった。

予選日28日の天候は晴れで時々雲が出る程度で西風が涼しい。気温26℃、路面温度36℃の9時30分に始まった公式練習では、木村が20周、ケイが11周して車両とタイヤをチェック。ベストタイムはケイがマークした1分58秒760で、これはクラス14番手となるものだった。

### 公式予選：Q1 Bグループ



2022.5.28  
14:55-15:05  
ドライバー :ケイ・コッツォリーノ  
気温 :28℃  
路面温度 :44℃  
順位 :Bグループ5位  
Best Lap :1'57.670  
Lap数 :4Lap  
走行距離 :23.228km

#### ■ケイが中古タイヤながら5番手でQ2へ進出

GT300クラスの予選は、シリーズランキングにより14台のA組、13台のB組に分けられ、PACIFIC hololive NAC FerrariはA組に区分された。14台のうち上位8台に入れば、Q2へ進出となる。朝の公式練習で持ち込んだ本命タイヤの本数が少なく、中古タイヤを履いてケイがコースイン。2周をかけてタイヤを暖め、3周目にその時点で2番手タイムとなる1分57秒670をマークした。しかしこれを更新する車両があり、5番手となった。これで3戦連続のQ2進出となった。

## 公式予選 : Q2



2022.5.28  
15:48-15:58  
ドライバー :木村武史  
気温 :28℃  
路面温度 :38℃  
順位 :14位  
Best Lap :2'01.195  
Lap数 :5Lap  
走行距離 :29.035km

### ■木村は15番手タイムからグリッドは14番に

Q2はQ1よりも路面温度、気温共に下がったコンディションで始まった。木村はコースインし2周かけてタイヤを暖め3周目にアタック。2分3秒387であったが、もう1周アタックを続け4周目に2分1秒195へタイムアップ。15番手に終わったが、予選後の再車検でトップの車両が不合格となりすべてのタイムが抹消。スターティンググリッドはひとつ繰り上がり14番となった。

## 決勝



2022.5.29  
14:47-16:43  
第1スティント :木村武史  
第2スティント :ケイ・コッツォリーノ  
気温 :30℃  
路面温度 :50℃  
順位 :23位  
Best Lap :2'00.908  
Lap数 :48Lap  
走行距離 :278.736km

29日は前日同様好天に恵まれ、前日より気温が上がり、フォーメーションラップが始まるころには気温30℃、路面温度は50℃まで上昇した。今回は木村がスタートドライバーを務め、ミニマムの周回数でピットインし、交代したケイが追いかけるという作戦。

オープニングラップでスローダウンした車両が2周目にコースサイドにストップ。これで早くもFCY(フルコースイエロー)となり各車制限速度の80km/hまで減速。12分ほどでリスタートとなったが、木村がFCYの減速のタイミングをヨーロッパ方式と勘違いし、SUPER GT規定に違反とされピットロードのドライブスルーペナルティを受けることになった。15周目に木村はピットインしてペナルティを消化。17周で再びピットインして給油とタイヤ交換、そしてケイに交代した。

ケイは25番手でコースへ戻ると追い上げを開始。30周までに20番手まで順位を上げていた。しかしタイヤが十分なパフォーマンスを発揮せず、33周でピットインしてタイヤを交換した。このためトップ車両から周回遅れになってしまったが、17番手まで追い上げ、さらには2位争いをしていた2台の車両に追いついた。さすがに周回遅れではこれを追い抜くわけにもいかず、そのままの順位でチェッカー。チームポイントを3点追加した。

## COMMENT



### エントラント代表 神野元樹

「チームもドライバーも全力を尽くしてくれましたが、とても厳しいレースでした。想像以上の気温によりタイヤの選択も難しく、ペナルティもあたりと予想していたレース展開には持ち込めませんでした。とは言え、メカニックのミスは無く、体制としては誇れるレースでもありました。良いデータも取れましたので、次戦の富士、鈴鹿ではしっかりと準備してレースに臨みます」



### 木村武史

「FCYはヨーロッパのルールと勘違いしてしまったことで、減速が遅くなってペナルティを取られてしまいました。気温、路温とも上昇しましたがクールスーツがあったので暑くはありませんでした。ただ超高温の時に結構苦戦したかなという感じはしました。鈴鹿は得意なコースというわけではないので、他のコースであればもう少し良い仕事ができるかなと思います。今回は持ち込んだタイヤが予想以上にパフォーマンスを発揮できなかったのもう一度チャンスがあれば選択ミスをしなくてレースができると思います」



### ケイ・コツオリーノ

「決勝レースは気温と路面温度次第とは予想していましたが、タイヤ選択が難しく、本命と思っていたタイヤがダメでバックアップで持ってきたタイヤが良かったです。路面温度が50℃まで上がったので、本命のタイヤの方が高い路面温度には合うかなと思ったのですがダメでした。それでもう一度ピットインしてバックアップタイヤに交換したらものすごく速かったです。これで学習できたので、次回の富士とその次の鈴鹿ではそちらのタイヤで戦いたいと思います」

## PARTNERS








## SPONSORS



























